

「ひろしまトリエンナーレ 2020 in BINGO」における検討委員会設置の報道に対する声明

2020年3月6日
美術評論家連盟
会長 林 道郎

本年9月から開催される国際芸術祭「ひろしまトリエンナーレ 2020 in BINGO」について、広島県が芸術祭実行委員会から独立した別の委員会を設け、事前に作品の出展可否を検討する方針である、という報道がなされました。*

報道にあるように、芸術祭を組織する実行委員会とは別の独立した委員会が設けられ、外部機関として出展可否の検討と決定が委ねられるのであれば、ここで検討委員会とされているものの働きは、公然たる検閲であるとみなさざるを得ません。

こうした働きを持つ検討委員会が外部に実際に設置されるならば、出展作、そして当該芸術祭そのものも、すべてこの実質上の検閲組織の許諾下にある非自律的な表現と解されることにならざるをえません。検閲されることを前提として、出品するアーティストたちはその検討基準への配慮を余儀なくされ、表現を萎縮させることにもなるでしょう。そして観客は、この芸術祭に出展された作品群を、アーティストやキュレーターによる自律的な吟味と判断を経て制作された表現とみなすことができず、当然、鑑賞や批評の対象としての純度も保証されなくなります。

外部機関によって作品の内容が検討され出展の可否まで審査されることがあらかじめ自明である展覧会に対しては、国内外のアーティストはもちろんのこと、美術関係者からの支持や参加も難しくなり敬遠されるはずで、なぜならそれは、もはや個々のアーティスト、キュレーターの判断を尊重した正常な国際展とは到底いえないからです。

以上のように、もし報道されている通り、「ひろしまトリエンナーレ 2020 in BINGO」に検討委員会と称される外部機関が設置されるとすれば、美術評論家連盟は、「ひろしまトリエンナーレ 2020 in BINGO」を信頼に足る健全な国際展として認めることも相対することもできない、とここに表明します。

* 「芸術祭展示で事前検討委設置へ」NHK NEWS WEB（広島 NEWS WEB）2月26日8時8分
<https://www3.nhk.or.jp/hiroshima-news/20200226/4000006836.html> ほか

（当連盟による過去の関連表明）

・ ICC 出品作の改変に関する公開質問状

http://www.aicajapan.com/wp/wp-content/uploads/AICA_Japan_open_letter_2019_05.pdf

・ 「あいちトリエンナーレ 2019」における「表現の不自由展・その後」の中止に対する意見表明

http://www.aicajapan.com/wp/wp-content/uploads/AICA_Japan_opinion_2019_08.pdf